



郵便
報知新聞
 第六百六十五号

向島植木屋常次郎が娘をさうな
 生色つね色白き吏衫と襟りな
 如く髪の毛さく赤くもさく
 腫も浅黄さうなれば人々間の
 子とよびくその名と呼ぶりのを
 かりしが寂早年頃もさく色を
 遊ばせてもあつたはと伺り里乃
 料理屋植半一つは働さうと
 河りが不計ある西洋人の目に
 留り我が國生まの娘とさうなり
 相違ちりともさく思ひ入るる
 通詞は誠の心を述べしめ支るる金
 月給金ホあまらと与つく妻と抱
 入まるとちん

三遊亭圓朝述



三遊亭圓朝

